

## 平成23年度東海ブロッククラブミーティング2011開催報告

日時：[第1日目] 平成23年11月12日（土）13:00～17:00

[第2日目] 平成23年11月13日（日）13:00～17:00

会場：「愛知県教育会館」

内容：[1日目]

- (1) 開会プログラム
- (2) 講演
- (3) よろず相談会
- (4) まとめ

[2日目]

- (1) 開会プログラム
- (2) 事例発表
- (3) グループディスカッション
- (4) まとめ

{概要}

東海ブロックのクラブミーティングでは、当エリアにおける総合型クラブの育成や活動支援を推進するため、今クラブが抱えている課題や求められている方向性に則し、より実践的なクラブミーティングを目指しました。

文科省が2010年に提唱した「スポーツ立国戦略」では、スポーツコミュニティの形成促進や新しい公共を担う拠点の育成などが重要な推進テーマとなり、その推進拠点として全国の総合型地域スポーツクラブが注目されています。

このような国の方針を踏まえ、第1日目は創設段階で重要となるクラブの理念をしっかりと構築していただきたく「地域力を引き出すクラブ運営」をテーマに会を進めました。

第2日目は toto などの助成期限が話題になっている昨今ですが、「自立への挑戦」というテーマで自主財源の確保やクラブの存在価値を高める方策を具体的に探る会となりました。

【討議内容】

[1日目]

【講演「地域力を引き出すクラブ運営」】

東海ブロック地方企画班員築瀬歩氏から「地域力を引き出すクラブ運営」と題して講演をいただきました。

築瀬氏自身は現在、愛知県豊田市で「しもやまスポーツクラブ」の運営にたずさわっています。その中で自身



の経験、思い等を交えて「地域力を引き出すクラブ運営」についてご講演をいただきました。講演内容はまず地域力の定着から入り、地域力は総合的な力であることを説明されました。

次にスポーツがどのような形でこの地域力に貢献できるかについて様々なスポーツの効果が説明されました。特に、総合型地域スポーツクラブが複数設立された市町において犯罪発生率が少ないなどの資料は、参加者の興味を引きました。そして、地域に貢献し地域力を引き出せるような総合型地域スポーツクラブの理想像、そのためのクラブ運営のポイントなどが説明されました。特に、クラブの様々な収入をどのような支出に充てるべきかについての提案は、フロアの参加者の関心を集めました。



#### 【よろず相談会】

6 グループに分かれて実施しました。

各クラブの課題を解決するために各クラブより問題提起をしていただき意見交換を行うとともに今後、設立に向けたクラブ育成アドバイザー等からのアドバイスを行いました。

#### 【まとめ】

今回参加した創設支援クラブ関係者の約半数は行政担当者の参加でした。この時期に設立を目指す市町の行政担当者の中には、クラブ設立に対してのモチベーションが必ずしも高くないのではないかとと思われる方もいたように感じられました。創設2年目の団体においては、今年度中の設立を目指すため、具体的な設立準備に関する質問が多く、助言者の回答に感謝していました。

#### [2日目]

2日目のミーティングテーマは「自立への挑戦」です。対象者は主に自立支援・クラブマネージャー設置支援クラブ並びに各県下の連絡協議会加入クラブですが、今回の参加者は該当クラブから44名とSC全国ネットワーク委員や地方企画班、具体協担当者・クラブ育成アドバイザーなどの関係者が18名の合計62名でした。

#### 【事例発表】

2日目のテーマである「自立への挑戦」に関する事例発表を、掛川総合スポーツクラブ（掛スポ）の板垣ゼネラルマネージャーが発表しました。発表者はSC全国ネットワークの常任幹事と東海ブロックの地方企画班長を兼任しており、掛スポの取り組みだけでなく東海

ブロック内での実践事例も含め紹介がありました。

発表の骨子は大きく3部構成となっており、パート1では主に掛スポの「自主財源の確保」に関する取り組みについて、パート2では主に掛スポの「クラブの存在価値」を高める取り組みについての紹介があり、パート3では東海4県内クラブの具体的な「実践事例の紹介」であります。下記にその発表内容を報告します。



まず冒頭で総合型クラブの事業目的は「まちづくりや地域貢献」であり、重要なのは事業の継続であること、事業の継続には「事業のしくみ」の構築が重要で、その経営資源が「ヒト・モノ・カネ・ネタ」であることを確認しました。

自主財源の確保はクラブ経営の原点で、自主財源率をいかに向上させるかの取り組みの事例紹介がありました。行政や toto などの助成金はいずれも有期であり絶対保証は無いわけで、現実問題として toto 自立支援助成5年目のクラブが悲鳴を上げている実態があります。

クラブ当事者は頭で理解していても自主財源率を向上する試みは大変なことで、これまでの会費方式を変更したり参加料を値上げするなどの安易な解決策ではなかなかうまく運びません。



そこで必要かつ重要な戦略はクラブの「地域の存在価値」をいかに高めるかの発想で、その挑戦についての紹介がありました。今回の具体的な実践事例が自分たちクラブが抱える諸問題を明らかにし、問題解決の糸口を探るきっかけづくりになることを期待します。総合型クラブとはこうあるべきだという既成概念に捉われると前進がありません。参加クラブが地域のニーズを的確に

把握し、今回の事例をネタにクラブ独自にアレンジして活用することが重要です。今回の実践的な事例紹介を、是非有意義に活用していただきたいものです。

#### 【グループディスカッション】

クラブの理念と目的は、経営の源でありクラブの戦略です。私たち地域クラブの生きる道は、常に地域のニーズと時代のニーズに対応しなければなりません。すなわち、クラブの存在そのものやその活動プログラムは地域住民にとって常に魅力的であるべきで、それが地域におけるクラブの「自立への挑戦」そのものです。

今回のグループディスカッションは、参加クラブの活動年数や事業規模などのグレードで同等のグルーピングを事前に配慮した上で実施しました。事例発表の内容も参考に具体



的な課題の提供とその課題解決について実質的な意見交換の場になったと思います。1つのグループの人数を6～7人という少人数とし、全8グループで熱心に取り組んで頂きました。

クラブの自立と事業の継続には、ヒト・モノ・カネの確保とそのしくみづくりが重要です。参加者はこれらの具体的な課題や取り組み方法を、グループディスカッションでの意見交換を通じ、解

決の糸口や今後の活動指針にしていただければ幸いです。

#### 【まとめ】

1日目はこれから創設するクラブを対象に「地域力」をいかに引き出すかというテーマで、講演とよろず相談会に参加議論していただきました。2日目は「自立への挑戦」をテーマに、自主財源の確保や地域の存在価値を高める事例発表とグループディスカッションに挑戦をしていただきました。

今後ますます総合型クラブは、「新しい公共」として地域のコミュニティを推進する拠点としての期待を集めています。今回の講演や事例紹介を他人事とはせず、柔軟な発想や対応方法を模索し挑戦することが重要です。

(報告：1日目担当／東海ブロック地方企画班員 片岡 康行

2日目担当／東海ブロック地方企画班長 (兼)

SC 全国ネットワーク東海ブロック代表常任幹事 板垣 晶行)